

令和 7 年度 第 1 回おおたかの森中学校区 学校運営協議会 議事録

1. 期日 令和 7 年 5 月 20 日(火)

2. 場所 流山市立おおたかの森中学校 会議室

3. 出席者

小泉 勲	渡会有紀子	高安尚子	大野貴子	
延江直美	橋本知佐	清水由貴子	鈴木晶裕	三苫周平(リモート参加)
塩野述子	北野美紀	松山秀行		

欠席者

清野さよ

4. 次第

開会の言葉	9:10
任命式・委員自己紹介	9:11
日程説明	9:15
授業参観	9:30
CS概要説明	10:25
会長副会長選任・協議	10:30
諸連絡	11:30
閉会の言葉	11:35

5. 協議内容

(1)会長及び副会長の選任

会長 渡会有紀子 副会長 高安尚子 に決定

(2)学校経営の基本方針について

【市野谷小学校】

・学校教育目標: みらいを切り拓く力の育成

・めざす子ども像: にこにこ思いやりのある子、はきはき進んで学ぶ子、どんどんチャレンジする子
→活力の中にも規律ある生活

・令和 6 年度学校評価

市野谷小の教育活動…学校が楽しい、よい学校等、肯定的な評価がとて多い
いじめ防止教育…他の項目に比べやや低い

・学校経営の方針 I

「学びの充実」基本は授業

①これまでの学び+ICTの良さ

②民間企業等との連携した教育

→30 社以上と連携 保護者からも協力的な声上がるようになり、さらに多くの企業との連携

「心の充実」あたたかな心の育成 いじめのない学校を目指して より良い人間関係づくり
『絆』プロジェクト

- ①ICTの心の天気 時間割の中に入力する時間を入れ確実に把握 あたたかな声かけ・つながり
- ②学びや心のデータが見える化
- ③いじめ防止授業 全学年全クラスで行う 知識・対応を教える
- ④教員のいじめ防止研修 6月からスタート 市教委と連携いじめ防止に向け研鑽を積む
- ⑤幼児期からの架け橋プログラム 幼児教育を参考に学校に馴染めるカリキュラムを導入
(朝すぐに勉強ではなく、遊びから徐々に馴染めるようなカリキュラム)
- ⑥読書で心を耕す 市内小学校で2番目の読書量 ボランティア等の効果
- ⑦食育を通してあたたかな心 ランチルームで異学年との交流給食
- ⑧全校みんなで遊ぼう 「ご褒美は後の方が良い」という子どもたちの意見を取り入れ、金曜日にロング昼休み(掃除なし)を導入 絆づくりに大きく役立っている
- ⑨みんなの力でつくろう スポーツフェスティバル 子どもたちが進んで取り組むスタイルを取っている

・学校経営の方針Ⅱ

チーム市野谷(全教職員で) オール市野谷(保護者地域で協力)
オール市野谷で支える共育 子どもたちを学校と家庭、共に育てたい

【質疑応答】

- Q. 企業とのやりとり非常に良い 児童からの良かった意見ありますか？
- A. 全部を学ぶのではなく、世の中のその部分を少しでも興味を持ってもらうことがメイン
ユニセフの平和教育は興味深いものがあつた
- Q. 地元の企業は？
- A. JA、花屋、農家など 学校の先生からだけじゃない学びを与えて興味を持ってもらうことが大事
やってる先生方も楽しんでいる 保護者も興味を持ってもらっていることが良い
- Q. 感想になりますが、開校2年目だけあって新しい取り組みがとても良いと思う
ロング昼休み、企業との連携 興味深いです
- A. ロング昼休みは大好評 子どもたちはちょっとしたことでも大喜びしてくれること改めて感じた
- Q. 朝自分の好きな遊びから入る一日、リズム遊びはどのようなものですか？
- A. 保育園での取り組みをやっている 柔らかいゆったりした時間を設けている
やってみて効果が大きい 考え方の概念を崩していきなさいいけないと思う
- Q. 市野谷小での実践をおおたか小でもやりたいと思っている。ただ、児童数学級数多い
コンテンツの平等性、親からの心ない苦情、先生の負担等課題になると思うが
- A. 小山小(大規模校)を経験しているため児童が多いことによる動きにくさは理解している
興味を持ったものを追求していく 大規模校でもテーマごとに分けることで可能になる
また先生方が楽しいと思わないと長続きしない

【おおたかの森小学校】

・学校目標: 未来にはばたくこどもが育つ学校(こども←ひらがな)
つよく かしこく あたたかく 高め合い学び合い認め合い 笑顔あふれる学校
(学校目標に込めた願い)

①みんな違ってみんないい

人と比べず、自分の好きや得意を大事に →笑顔に繋がる 友達を大切に思う

②学校はこどもたちの居場所 失敗を恐れずに挑戦できる環境づくり

「やってみよう」「困っている」を支援する

学校はこどもが真ん中にいなければならない。学校は小さな社会。「いいなあ」という自然に笑顔があふれる学校にしたい。こどもたちの自己肯定感の向上、ウェルビーイングを学校の中でも実

現させたい。

・**目指すこども像： つよく かしこく あたたかく**（1年間のキーワード）

・つよい体（運動に親しむ資質の育成 ゆうゆうスポーツランキング なわとび活動など）

・つよい心（安心感、充実感のある学級づくり 「うれしい」「たのしい」をいっぱい
「自分で考える！」→「やってみよう！」を増やしたい）

・かしこく 基礎学力は高い・得意だが、自分で考え相手に聞く話すが少し苦手
「話す」「聞く」を軸とした学び合いの授業作り

・知的好奇心あふれる学び（キャリア教育、総合的な学習で地域保護者の力借りたい）

・一部教科担任制を導入 ・読書活動読書の良さ・世界を広げる 地域の力を借りて

・あたたかく あいさつを大事に 朝安全の見守り+自ら挨拶

・**大人は、こどもたちのサポーター** キャッチフレーズにしたい

・縦割り活動で仲間と協力 ・みんなにとっての合理的配慮

・校内の支援場所「ほっとルーム」居場所作りをしている

・**教育活動と時間割**

・児童の負担軽減、教職員の授業準備、研修時間の確保のための取組

掃除週3回、6時間授業週2回、朝のモジュール時間活用（読書）

・**校内研究**

・教科を縛らずに「話す・聞く」を軸とした学び合いの授業づくりを目指す（教科横断的な学び
探究的な視点の種まきをしたい）

【質疑応答】

Q. やりたいこといっぱい保護者もわくわくしている これを真っ先にやりたい、重点的に取り組みたいということは？

A. こどもたちのやってみよう！を応援したい → 笑顔に繋がる と思う

Q. (感想)挨拶が変わったと保護者も感じている もっと保護者にも知ってもらいたいその姿を見せたい

PTAが変わることで保護者も変えたいと思っている 旗振り→挨拶旗振りに変えたい

Q. キャリア教育・総合 民間との連携は？

A. 森環境保全 ゴーヤ等 たくさんの職種の方に(オンラインも含め)関わってもらいたい
と思っている

【おおたかの森中学校】

・**学校目標： 主体的に活動し、自立する生徒の育成 夢をもち、あたたかく、たくましく**

・与えられた業務を言われたとおりに正確に行う能力

→ これからの時代 ○新たなものを作り出す創造力 ○話し合いによる問題解決能力
○多様な価値観を尊重する力

・△夢や希望を持ちにくい △当事者意識が低い 若者が多いという現状が分析されている

・**学び方がそのまま将来の働くスタイルに繋がる**

・学校に適応させるのではなく、**社会に適応できる力を身につける必要がある**

△言われたことはできるが、自分からできない △勉強の仕方がわからない

△先生に自分から質問できない

△「やっていい？」と許可を求める

△トラブルは大人が解決してくれると思う

△「～してくれない」が多くなる

→**自己決定・当事者意識を持たせる**

○言われた事を何も考えずにやるのではなく、なぜやるのか納得して行う

○指示されたことに対し、こういう意味があると思うのですが、合ってますか？など
自分で確認する

**・生徒像：自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く
幸せを実現しようとする生徒**

- ・自分の言葉で夢を語れる
- ・多様性を認め、人との関わりを大切にする
- ・心身を鍛え、やり抜く
- ・力を付けさせたい

〈体験を大切にしたい〉教科で学んだことが実際に形になるような機会を持たせたい

- ・修学旅行…タクシーではなく公共の交通機関を利用 地元の大学生に案内してもら
ブラザー&シスタープログラムを利用 自分の足で回る体験をさせる
- ・コーポレートアクセス…企業インターン、企業のミッションに対して取り組む
ロート製薬との取組 防災について考える
- ・地域防災訓練への参加 学校、地域、行政、企業と連携
各教科で学んだところを実際の場面で役立てていく
- ・林間学園…民泊（農家で宿泊し体験）

〈学年担任制〉

- ・1、2年生で導入している 職員がチームとして全クラスを見ている
ねらい：○そばにいて見守り、お互いの利害関係を調整し、過ごしやすい環境を子ども
たちが作れるようにサポートする
○生徒自身がクラスのために何ができるかを考え、行動できるようにする
○担任主導ではなく、生徒自身が主体となって学級をつくれるようにする

〈誰もが学びやすい環境のために 特別支援・多様な学び〉

- ・サポート教員、スクールアシスタント、介添員によるサポート
- ・おおたか学級・学習支援室・SC、サポート看護師
- ・フレンドステーション・エデュオブ千葉・フリースクール等外部機関との連携
- ・おおたかの森小、市野谷小との連携・地域学校協働本部、後援会、保護者、地域連携

【質疑応答】

- Q.（感想）小学校からの継続の指導に感謝。今までの子どものスタイルでは大人になってから困ることがあったと思うが、これが解消されるような指導をしてくれることは嬉しい。これからさらに親のサポートがすごく必要になってくると思う。こういう学校に子どもたちが通えることが嬉しい。

(3) 学校経営基本方針の承認

(4) 今年度の活動について

テーマ「未来に向かう 子どもたちの育成 ～つなぐ・つなげる～

- ・昨春秋に発足し、方向性を決めた。夢を持てる、未来に切り拓いていく力を付けさせたいという思いがある。各学校での取り組み、ボランティア活動、昔遊びふれあい活動、防災…、テーマに結びつけて意識して活動できたらと思う。
- ・挨拶運動などはどうか。
- ・市野谷小は絆プロジェクト、おおたか中は地域と防災、おおたか小はやってみよう！学校で色が違う。各校の取組を支えてもらえたらと思う。
- ・NPOを活用するのはどうか。地域との繋がりが強い。自主性主体性を持たせ、子ども中心でできるメリットがある。

- ・中学校の目標を小学校は目指したい。ロート製菓との取り組み面白い。生徒、地域、のちに小学校も巻き込める取り組みだと思う。
- ・年度が変わったら挨拶する子どもが減った。中学生は顔がわかる人しかない。挨拶のできる子どもたちに育てたい。
- ・中学生との防災一緒にやっていきたい。→7月26日(土)実施
- ・昨年度、校内を回って学校の危険箇所のチェックをした。→危険箇所が修正されていった。
- ・子どもたちの Canva を使った掲示物等、素敵だと感じた。
- ・防災、安全に対する取り組みとても良いと思った。
- ・3年生CPの流れで防災の取り組みをしている。持続可能な取り組みにするには…課題。持続可能な取り組みにするにはどうしたらよいか知恵を貸して欲しい。
- ・人との繋がりを大切にする。社会性を学べるのは人が居るから。義務教育だから平等な学力が身に付くことを期待する。この地域は基礎的な学力高いが、全ての児童生徒ではないので取りこぼしのないようにして欲しい。
- ・親の会は、いかに保護者に学校に興味を持ってもらえるかを意識している。

6. 諸連絡

- ・第2回学校運営協議会 11月11日(火) おおたかの森小学校 10:20～の予定